

AI進化が知財実務を塗り替える：Anthropic 2026年レポートから読み解く新戦略

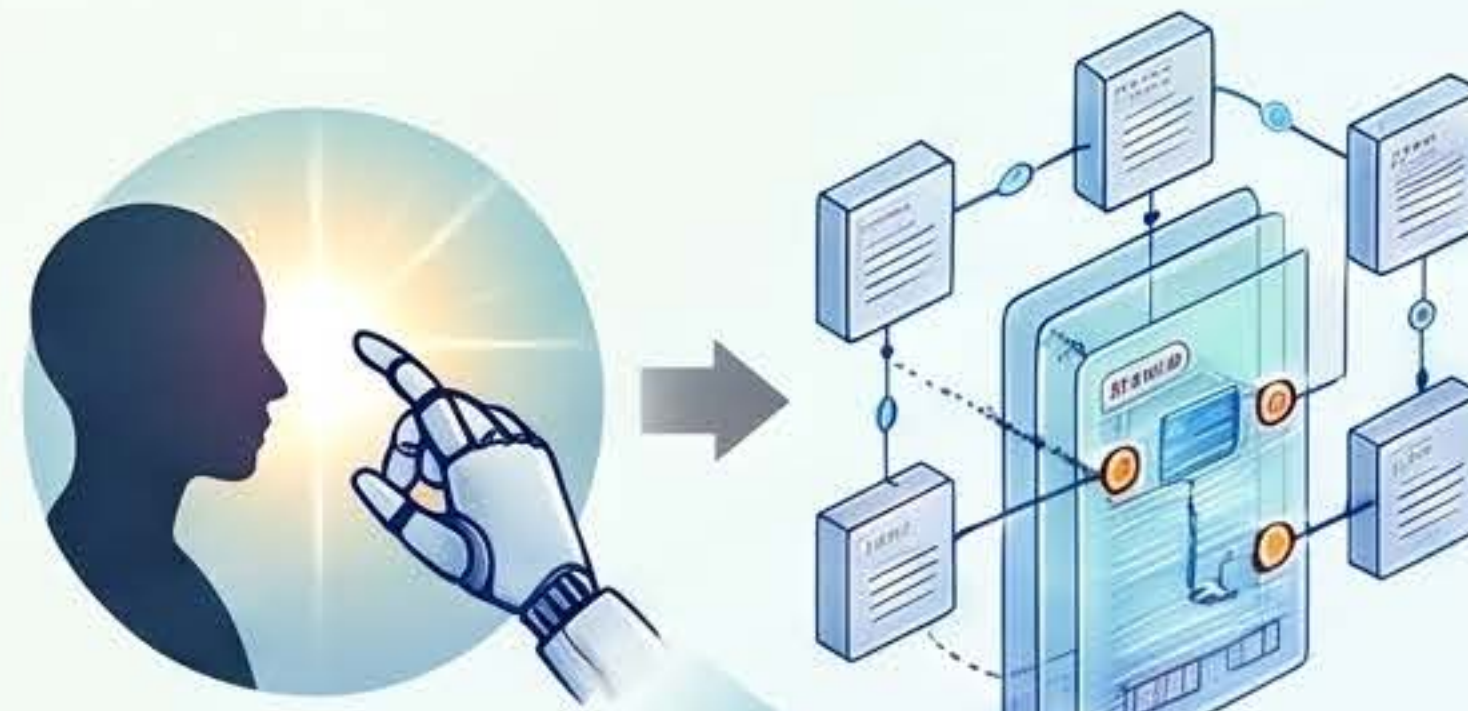
Anthropic社が2026年8月に公開した「Risk Report」を、知財実務の視点で分析した内容です。
AIによるR&Dの自動化が目前に迫る中、特許出願、営業秘密管理、発明者認定のあり方が根本から問われています。

知財戦略のパラダイムシフト

特許から「営業秘密・技術的秘匿」への傾斜
中核技術の特許ではなく、多重のセキュリティ規制と意図的な出力削減（滯留対策）で保護する傾向。



発明者認定の争点は「証拠管理」へ移行
「AIが発明者か」ではなく、人間の創作的寄与をどう記録・証明するかが実務の主戦場となる。



分野別で異なる「R&D加速」の非対称性

6か月→1週間に短縮



ソフトウェア開発



物理的検証を
伴うため加速が
限定的

バイオ・材料

知財実務アクションプラン

出願・秘匿・防衛的公開の「3分岐フロー」構築
AIによる出願量の爆発に備え、権利化の
必要性和秘匿コストを天秤にかける
判断を自動化する。



権利化（特許出願）



秘匿（営業秘密）



防衛的公開



発明届出書のアップデートと
AI利用ログの保存
発明届出書にAI利用欄を新設し、
人間の著想・具体化の証拠を
系統的に紐づける。



発明届出書

AI利用記録

人間の寄与内容

今期取るべき第一手



PRIORITY

出願戦略
出願・秘匿・公開
のフローを構築



PRIORITY

発明者認定
AI利用記録と
人間の寄与を管理



PRIORITY

営業秘密
AIアクセスと
ログ管理を点検